

高畠高生の活躍

山形新聞にある「若者の声」に、本校 1 年次生の浜田紗耶さんの文章が掲載されました。

「地域の伝統文化」を次代に残していきたいという思いから、本県の魅力発信のあり方について自身の考えを述べています。

若者の声 高畠高

地域の伝統文化残したい

■ 1 年 浜田紗耶

高校生になり、自分の進路の選択に役立つと思い、山形県内の若年人口の進路状況を調べてみることにしました。

県内の高校卒業生の進路は半分以上が県外です。県内の大学に進学した卒業生の多くが県外に就職していることも分かりました。この現状が続けば県の少子高齢化は加速し、人口も減少してしまいます。

またこれにより各地域の伝統文化の継承が難しくなる可能性も出てきます。私の地域では、学校の合併などもあり、少子高齢化の現実を身近に感じるようにな



りました。一方、置賜地域では若年向けのイベントや大学・企業の説明があり、インターンシップの規模拡大も進んでいます。企業がインターネットや交流サイト（SNS）を使い県外へ向けてPR動画を作成をしていることも知りました。住居に関する相談支援センターのサポートもあるようです。県の魅力を広めるため、いろいろな取り組みがあります。

こうしたことを知って私は、自分の地域の伝統文化は残ってほしいと強く思いました。県はこれからの未来のために若者の声にもっと耳を傾ける必要があるでしょう。置賜地域での対策を知り、もっと県の魅力が広まればと思います。私も協力していきたいです。

紙面編集・古沢太郎

令和7年1月18日（土）「山形新聞」から